




2020年5月26日

飯能市議会 議長
平沼 弘 様

加治丘陵の自然を考える会・飯能
代表 長谷川 順子 
飯能市 赤沢 353

「阿須山中土地有効活用事業」の中止と白紙撤回を求める請願書

日頃より、市民の暮らしと福祉、生活と環境を守るためにご尽力いただき誠にありがとうございます。

さて、飯能市が実施した「阿須山中土地有効活用事業者の公募」で最優秀提案事業者として選定された一般社団法人飯能インターナショナル・スポーツアカデミーが提案した計画案「飯能の未来を託す子どもの育成環境整備と地方創生のためのシティプロモーションの実現」については、現在、サッカー場建設とその運営費を賄うためのメガソーラー発電事業の準備が進められています。

飯能市議会においては、飯能市土地開発公社が自然公園の整備を目的に取得した阿須山中土地について、平成 25 年 3 月市議会定例会開催以来、毎年買い戻し予算審議の中で、公社本来の取得目的を市が継承することの審議がなされないまま、平成 29 年には、市の新たな財源の確保や財政負担の軽減を図りながら地方創生の取組を推進することを目的とした阿須山中土地有効活用事業の公募が実施されました。その後、大規模な森林破壊をとまなう前述の計画案が実施されつつありますが、この事業内容の是非については審議されておられません。

そこでこの事業に対して中止と白紙撤回を求める多くの市民の関心が高まった今こそ、この事業内容の是非について議会で審議されることを強く求めます。

理由①： 阿須山中の土地は、当時の市長が、自然保全を図るために、飯能市土地開発公社理事会の承認を経て自然公園整備を目的に取得され、さらに市民の税金で市が買い戻しを続けている市民の財産です。この事業は取得目的と異なる事業形態であり、且つ、まだ多くの市民が認識していません。また十分な説明もなく開発が推進されることは納得できません。

②： 開発予定地には、埼玉県が絶滅危惧種と指定している希少種の動植物が多数生息しています。開発ではなく、保護すべきです。

◎観測された希少植物

ラン科・コ克蘭、エビネ：埼玉県絶滅危惧 IB 類 EN

オオバノトンボソウ、ササバギンラン、シュンラン、

サイハイラン：埼玉県準絶滅危惧 NT

スマレ科・マキノスマレ：埼玉県絶滅危惧Ⅱ類 VU

ムラサキ科・ヤマルリソウ：埼玉県絶滅危惧Ⅱ類 VU

ウマノスズクサ科・カンアオイ：埼玉県準絶滅危惧 NT

シダ類・キヨスミヒメワラビ、ウラジロ、コシダ：埼玉県準絶滅危惧 NT

◎観測された希少動物

両生類・トウキョウサンショウウオ：埼玉県絶滅危惧 IB 類 EN、環境省 絶滅危惧Ⅱ類 VU

ツチガエル：埼玉県絶滅危惧 IB 類 EN

魚類・ホトケドジョウ：埼玉県絶滅危惧 IA 類 CR、環境省 絶滅危惧Ⅱ類

哺乳類・ニホンカモシカ：特別天然記念物

鳥類・サンコウチョウ、サンショウクイ：埼玉県絶滅危惧 IB 類 EN 環境省 絶滅危惧Ⅱ類 VU

コサメビタキ：埼玉県絶滅危惧 IB 類 EN

オオタカ：埼玉県絶滅危惧Ⅱ類 VU

クロツグミ、ヤブサメ、フクロウ：埼玉県準絶滅危惧 NT

③： 阿須山中の針広混交林はまさに、森林文化都市・飯能市が指標とする第 6 次森林整備計画が 60 年かけて造ろうとしている森です。それを大規模に破壊して、サッカー場とメガソーラー施設を作るべきではありません。

④： 大規模な森林破壊で保水力を失うと、昨年 10 月の台風 19 号クラスの大雨が襲った場合、土砂災害の発生と危険が予測されます。市民の生命や財産が脅かされるような事業を行うべきではありません。

「阿須山中土地有効活用事業の中止と白紙撤回を求める」署名が 12,715 筆 (5/26 現在) 寄せられるなど、事業反対の世論が大きく広がっています。ついては、飯能市議会として飯能市長に対し、加治丘陵・阿須山中の市有地は市民参加の自然公園として、従来の目的の通り、自然保全地とするとして、「阿須山中土地有効活用事業」の中止と白紙撤回を強く求めることをお願いします。

紹介議員

新井 巧

紹介議員

金子 敏江